

光星 壯絶乱打戦制す

第101回
全国高校野球
選手権大会

6回7失点 苦境跳ね返す

近藤 4安打4打点 大暴れ

▽2回戦（3時5分、4300人）
八学光星

003 003 001 021
000 017 001 028

智弁学園（監督）

（監督）横山、山田、太山

（監督）小島、山本、西村、佐藤、出口

▽本塁打 近藤（身①）小島① 1回 武岡（身①）小島② 3回

▽暴打 近藤、坂下、前川、山田、下山、塚寺、横打、大江、太山、出口、益田、島袋、藤波、吉村、矢策、武岡、近藤、伊藤、白石、藤野、横山

▽試合時間 2時間55分

【評】八学光星乱打 左中両本塁打で先制。三四回中出の連打で3点戦を制し、激戦をのりこみ、主将武岡の中越え本塁追加分に、六回までに7回、初回、3番藤の暴打、近藤と山（弘前）よりトドした。

同郷ライバルに「勝った」

近藤は、この日も「かな線」で不動の3番近藤（身①）がひとたび大きな活躍を放った。初回、三番藤で攻撃のろを先方へ振り出した。打を上げて、三回六回にも連打を打ち、5打点4安打4打点と大暴れした。

近藤は、この日も「かな線」で不動の3番近藤（身①）がひとたび大きな活躍を放った。初回、三番藤で攻撃のろを先方へ振り出した。打を上げて、三回六回にも連打を打ち、5打点4安打4打点と大暴れした。

近藤は、この日も「かな線」で不動の3番近藤（身①）がひとたび大きな活躍を放った。初回、三番藤で攻撃のろを先方へ振り出した。打を上げて、三回六回にも連打を打ち、5打点4安打4打点と大暴れした。

田子園初登板の先発横山は、緩急をつけた投球で強打の善打線まで5回まで1失点に抑えたが、二塁打で8-8の同点に六回、制球の乱れから二塁打を招き、救援した山田も持ちこたえられず、大量失点で逆転を許した。

試合前、同じ奈良県出身で、地区リーグで何度も対戦していた坂下も、近藤の活躍に驚き、勝ったと喜んでいた。

近藤は、この日も「かな線」で不動の3番近藤（身①）がひとたび大きな活躍を放った。初回、三番藤で攻撃のろを先方へ振り出した。打を上げて、三回六回にも連打を打ち、5打点4安打4打点と大暴れした。

近藤は、この日も「かな線」で不動の3番近藤（身①）がひとたび大きな活躍を放った。初回、三番藤で攻撃のろを先方へ振り出した。打を上げて、三回六回にも連打を打ち、5打点4安打4打点と大暴れした。

近藤は、この日も「かな線」で不動の3番近藤（身①）がひとたび大きな活躍を放った。初回、三番藤で攻撃のろを先方へ振り出した。打を上げて、三回六回にも連打を打ち、5打点4安打4打点と大暴れした。

近藤は、この日も「かな線」で不動の3番近藤（身①）がひとたび大きな活躍を放った。初回、三番藤で攻撃のろを先方へ振り出した。打を上げて、三回六回にも連打を打ち、5打点4安打4打点と大暴れした。

近藤は、この日も「かな線」で不動の3番近藤（身①）がひとたび大きな活躍を放った。初回、三番藤で攻撃のろを先方へ振り出した。打を上げて、三回六回にも連打を打ち、5打点4安打4打点と大暴れした。

近藤は、この日も「かな線」で不動の3番近藤（身①）がひとたび大きな活躍を放った。初回、三番藤で攻撃のろを先方へ振り出した。打を上げて、三回六回にも連打を打ち、5打点4安打4打点と大暴れした。

近藤は、この日も「かな線」で不動の3番近藤（身①）がひとたび大きな活躍を放った。初回、三番藤で攻撃のろを先方へ振り出した。打を上げて、三回六回にも連打を打ち、5打点4安打4打点と大暴れした。

智弁の攻撃を無失点で抑え、勝利をもち取った。伝令後藤、奮起促す

○：初戦に先発で復帰登板した後藤は、この日伝令として裏方に徹した。崩れかけた先発横山と二番手の山田を励まし、奮起を促した。

四回、相手の三番坂下に四球を出した横山に「坂下を」気にせず打者を打ち取れ」と伝令。連打を浴びた六回にも「気持ちをしっかり持て」と仲間を奮い立たせた。七回には救援した山田に「インコースを攻めていけ」と声を掛け、逆

後藤は2人をたたえつつ「次は自分が登板し、勝利したい」と次戦の登板に意欲を燃やした。

バックネット

智弁学園・小坂監督 「前半打てなかったのが反省点、両チームとも最終は自分のベースで合った」
智弁学園・坂下主将 「もっとみんなが勝つて良かった」
八学光星・武岡主将 「殺れました。ミスが多かったので練習して修正してあげたい」

「日本一になれよ」

○：智弁学園は17日の六回、先頭の坂下主将が右翼へ二塁打を打ち、打者が一巡しつづいた打球がも強く引つづいた打球が一塁手の失策を誘い、追加点につながった。6点差のこのくり返しだが、八回に同点で九回に勝ち越された。坂下は「甲子園で思い切った必死に戦った。悔いはない」と涙ながらに話した。

同じ遊撃手で、世代別の日本代表でチームメイトだった八学光星の武岡主将には試合後、絶対に日本一になれよ」と声をかけたという。好守も見

「よっしゃー」

留守部隊歓喜
八戸市の八戸学院光星高校では12日、サッカー部やソフトテニス部の生徒や教職員、近隣住民ら約100人が試合をアレド観戦し、ナインに声援を送った。



ナイフに熱いエールを送る光星応援隊

「頑張った」「すごい」

スタンド応援隊
取った三塁側アルプススタンドは、同校の吹奏楽部やチアリーディング部の生徒約160人と保護者、現地の光星ファンで満席となった。応援隊は、大勢から逆転を許す苦しい展開を制したナインに「頑張ったな」「すごいぞ」と惜しみない称賛を贈った。

初回、近藤が先制弾を放つと、スタンドはいきなり大盛り上がり。近藤の母・慶子さん(41)は「まじか入るなんて」と感激しきりだった。六回に6点差をひっくり返され沈黙(ちんぷ)なムードとなったが、控えの野球部員やコーチ陣が「声を出して」と応援を呼び立てると、元気が声援を取り戻した。

最終回、途中出場の澤波の適時打で勝ち越し、2番手山田が最終打者を中飛に打ち取ると、この日一番の歓声が沸き起こった。澤波の母・弘美さん(45)は「澤波が打った瞬間、何が何だかわからなかった。本当にうれいす」と大粒の涙を浮かべていた。(大久保拓地)

した。初回、3番近藤の援のホルテージが上がった。本塁打で先制すると、生徒たちは「入った」「いいぞー」など大喜び。その後、着々と加点し、押し寄せムードだった。その裏、エース山田が最後の「あー」と大きなため息が漏れ、「一気に重苦しい」「よっしゃー」と大歓声が沸き起こった。しかし、八回が上がる。サッカー部の山崎晃輝

「見守ってくれている」

継投山田、心奮い立たせ

ハイライト

八回、試合を振り出しに戻した直後の光星の守り。2死満塁の危機を迎えたマウンドの山田は、亡き友への思いを力に変え、追いつがる習井学園の勢いを断ち切った。前半は試合を優勢に進めた。甲子園初登板の先発横山はスライダーとチェンジアップを巧みに使分け、5回1失点と好投。6回に適時打で出塁、続く打者の安打で本塁まで走ったことで

消耗し、その裏、2連打と3連続四死球で力尽きた。後を継いだ山田も相手打線を止められず、この回7点を失った。同点に追いついた八回、再び試練が訪れる。「一番自信がある」左打者の内角を狙った球が死球になるなど、満塁のピンチを招いた。打席にはこの日2安打の吉村、2アウトで追いついたがファウルで粘られる。ここで山田は、右の拳で自分の胸を「とん」とたたいた。脳裏に浮かんだのは、昨年夏病死した同学年のテ

ムメート・吉川智彦さん（当時2年）。同じ投手だった吉川が見守ってくれている。気持ちを強く持つ。心を奮い立たせて投じた6球目のスライダーは、バットの先端をこすり二ゴロに。絶体の絶命の場面を無失点で切り抜けると、九回に勝ち越し勝利をつかんだ。「背番号1をもらっている限り、敵い場面で投げることはある。いつも吉川のことを思って投げる」。亡き友と共に初回の頂点を目指す。（吉田希聖）

8回起死回生の同点打下山

下山（弘前四中）は初川が力を貸してくれた。大量失点で逆転を許し、この試合も2安打2打点とチームの勝利に貢献した。自分の力だけでは打墨の場面で内角に来た直球を迷いなく振り抜く。打球は左翼線際に転がり起死回生の同点二塁打になった。大事な場面で心に思っているのは吉川と共（こ）に。今も一緒に戦っている。亡き友への思いを明かした。（吉田希聖）

亡き友・吉川を思い

